

資料編

参考資料1 アンケート票

(1) 一般対象

サステナブル（持続可能）な流域圏づくりに関するニーズ調査（木曾広域連合）
【一般対象】

◆はじめに◆

少子高齢化が全国的に進行するのに伴い、木曾川上流域である長野県木曾地域では過疎化による農山村の衰退や森林荒廃が進行し、下流域では時に深刻な水不足や洪水等の災害に遭遇するなど、それぞれに大きな課題を抱えています。

こうした中、平成22年に名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）を契機に、木曾三川の自然環境保全に賛同した29自治体で構成する「流域連携自治体会議」では、平成23年から毎年木曾三川流域自治体サミットを開催していますが、平成25年のサミットにおいては「木曾からの提言」として、当地域にある資源を「流域圏の資源」として、下流域に住む皆様のニーズに即して、最大限に利活用することを通じ、上下流の交流・互恵関係を深めることを目指す提言をいたしました。

本アンケート調査はこのような「サステナブル（持続可能）な流域圏づくり」の一環として実施するものです。

◆調査の概要◆

○目的

- ・「はじめに」に記した「サステナブルな流域圏づくり」に向けて木曾川下流域に住む皆様の上流域に対するニーズを明らかにすること

○対象

- ・木曾川下流域に居住または就業する皆様

○調査方法

- ・アンケート用紙またはインターネットへの記入

○アンケート提出方法

- ・アンケート用紙：各協力組織のご担当者のご指示に従って、提出してください
- ・インターネット：調査会社のウェブサイト (<https://www.exri.jp/kiso>) にアクセスし、サイトの指示に従って、回答してください



わたしは木曾三川の流域連携自治体会議のマスコットキャラクター『かわたん』といいます。
今回は木曾三川流域の中の木曾地域を代表して、あなたについてもっと知りたいと思います。

◆その1：意識編◆

私たちはあなたのことをもっと知りたいです。



問1. あなたについてお尋ねします。以下の情報について選択・記入してください。

- 年齢： A. 10代以下 B. 20代 C. 30代 D. 40代
E. 50代 F. 60代 G. 70代以上
- 世帯人数： A. 1人 B. 2人 C. 3人
D. 4人 E. 5人 F. 6人以上
- 性別： A. 男 B. 女
- 出身地： A. 木曽 B. その他
- 現住所（県・市町村）：
木曽出身の知人の有無： A. いる B. いない

私たちとあなたのつながりは「川」です！



問2. あなたの普段使っている水は川から来ていることをご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない

問3. お米や野菜を育てる水は川から来ていることをご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない

問4. 工業が盛んである愛知県内の工場が使う水も川から来ていることをご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない

日本全国で利用されている水のほとんどは川が供給しています。

問5. あなたの住んでいる地域に水を供給する川をご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない



木曽川です。私たちは木曽川の水源である上流域から来ました。
私たちとあなたは木曽川でつながっています。

問6. 上流域には山と森がたくさんあります。川の水源地が山と森であることをご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない

問7. 水のほかに、山と森が空気をきれいにし、あなたの地域に供給していることをご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない

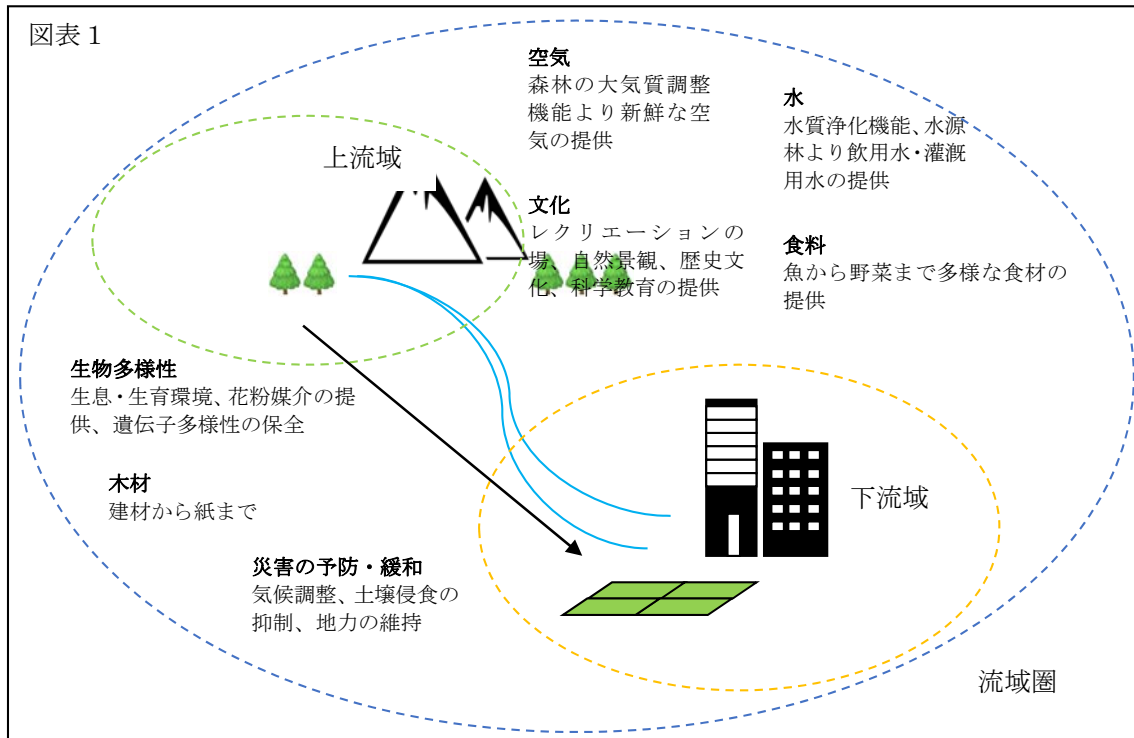
問8. 上流域では、豊かな自然環境の中で野菜などが栽培され、あなたの地域においしい食材として提供されていることをご存知ですか？

- A. 知っている
B. 知らない

問9. また、上流域の森が都市を土砂災害などから守っていることをご存知ですか？

- A. 知っている
- B. 知らない

問10. そのほかにも図表1のように、上流域とあなたの住んでいる地域は多様なつながりを持っています。



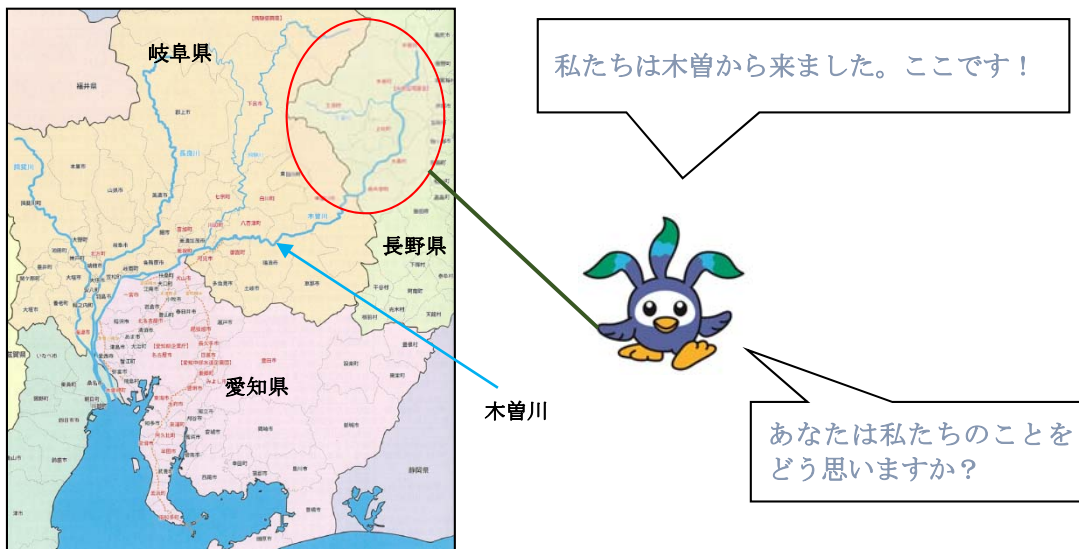
上流域の持つ資源のあなたにとっての重要度について、1～5の中から一つ選んでください。

5：とても重要 4：重要 3：どちらともいえない 2：あまり重要ではない 1：重要ではない

空気	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
水	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
文化	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
災害の予防・緩和	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
食材	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
生物多様性	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
木材	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)

問11. あなたは、上流域として認識しているエリアはありますか？

- A. ある（わかる範囲で書いてください、複数可：）
- B. ない
- C. わからない



問12. あなたは木曽に行ったことがありますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 行ったことがある（地名を書いてください：）
- B. 行ったことがない

↳ 問13. 問12. で「A」を選んだ方にお尋ねします。もう一度行きたい場所やお気に入りの場所はありますか？

- A. ある（具体的な場所を書いてください：）
- B. ない
- C. わからない

問14. あなたは以下の木曽のことをご存知ですか？ご存知のものに○をつけてください。（複数可）

項目	○をつけてください	項目	○をつけてください	項目	○をつけてください
御嶽山		赤沢自然休養林		お六櫛	
木曽節		阿寺溪谷		百草	
木曽五木		水木沢天然林		すんき	
木曽義仲		奥木曽湖(味噌川ダム)		赤カブ	
木曽漆器		御岳湖(牧尾ダム)		朴葉巻き	
木曽馬		スキー場		御嶽はくさい	
木曽十一宿		ろくろ細工		蕎麦	
中山道		南木曽ねこ		地酒	

問15. 愛知中部水道企業団は「水道水源環境保全基金」を通して、水道使用量 1m³ あたり 1円を基金積立して、積み立てたお金をダム周辺の水源涵養などの森林整備・水源保全に活用しています。あなたは、このような寄付金活動についてどう思いますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 賛成であり、自分の住む自治体でも参加すべきだと思う
- B. 賛成であるが、負担が大きいと思う
- C. 反対である

問16. あなたは木曾への貢献活動（ボランティア活動、交流イベントなど）に参加したことがありますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 参加したことがある
- B. 参加したことがない

↳ 問17. 問16. で「A」を選んだ方にお尋ねします。どのような活動に参加しましたか？あてはまるものを一つ選んでください。（複数可）

- A. 上流域と関連するボランティア活動
- B. 上流域への寄付金
- C. 上流域が開催するイベント
- D. その他（具体的に書いてください： _____）

問18. あなたは普段木曾の産物（上流域の材料を使ったもの、上流域で作られたもの）を買っていますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. いつも優先して買っている
- B. 同じような内容であれば優先して買っている
- C. 上流域の産物として重視・意識せずを買っている
- D. 買ったことがない
- E. わからない

↳ 問19. 問18. で「A」、「B」または「C」を選んだ方にお尋ねします。何を買っていますか？あてはまるものを一つ選んでください。（複数可）

- A. 農産物（野菜、果物など）
- B. 飲食品（漬物、お酒、水など）
- C. 工芸品
- D. その他（具体的に書いてください： _____）

私たちは以下の課題を抱えています。



問20. 私たち上流域は過疎化及び過疎化・人手不足に伴う森林荒廃により、上流域の機能及び下流域とのつながりの維持に苦慮していることをご存知ですか？

- A. 知っている
- B. 知らない

問21. これまで適切な時期・規模で森に手を入れることにより、森が持つ様々な機能を維持してきましたが、木曾の人口減少や林業の衰退により、私たちとつながっている下流域の地域も影響を受けてしまうことをご存知ですか？

- A. 知っている
- B. 知らない

問22. あなたはそのような上流域の問題による影響を感じていますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 感じている
- B. どちらかといえば感じている
- C. どちらかといえば感じていない
- D. 感じていない
- E. わからない

- ↳ 問23. 問22. で「A」または「B」を選んだ方にお尋ねします。どのような影響を感じましたか？以下の記入欄に記入してください。

私たちはもっとあなたとつながりたいです！
つながり方として、産物、観光、貢献活動と長期滞在・IUターンが考えられます。



- 問24. 「木曽ヒノキ」は木曽地域を代表する銘木ですが、木曽ヒノキで建てた家について、あなたはどのような印象を持ちますか？あてはまるものに○をつけてください。（複数可）

項目	○をつけてください
憧れ	
高級	
他の木造住宅より長持ち	
健康に良い	
居心地が良い	
日本の風土にふさわしい	
古臭い	
コストが高い	
その他（具体的に書いてください）	

- 問25. あなたは今後木曾に（また）観光に行きたいと思いませんか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 積極的に行きたい
- B. どちらかといえば行きたい
- C. どちらとも言えない
- D. どちらかといえば行きたくない
- E. 行きたくない

- 問26. あなたは今後木曾への貢献活動（ボランティア活動、交流イベントなど）に参加したいと思いませんか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 積極的に参加したい
- B. どちらかといえば参加したい
- C. どちらとも言えない
- D. どちらかといえば参加したくない
- E. 参加したくない

- 問27. あなたは将来地方への長期滞在やIUターンについて検討していますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 真剣に検討している
- B. 選択肢として検討している
- C. 検討していない

- ↳ 問28. 問27. で「A」または「B」を選んだ方にお尋ねします。将来長期滞在あるいはIUターンのために必要と思うものに○をつけてください。（複数可）

項目	○をつけてください
自然・緑の多いところ	
コミュニティの一員として受け入れてくれるところ	
日本の原風景・文化が残っているところ	
生活費の安いところ	
家庭菜園などができる十分な敷地のある家が持てる ところ	
自治体による支援施策があるところ	
自分の趣味を行える場所が近くにあるところ	
その他（具体的に書いてください）	

◆その2：ニーズ編◆

私たちはあなたともっとつながることで課題を解決したいです。



問1. 木曾の振興・活性化のためには上下流域交流が不可欠です。また、下流域が抱える課題に対して上流域が貢献することも少なくないはずですが、そこで、皆様の住む（働く）地域の上流域に位置する木曾が「心のふるさと」となり、上下流域の交流・互恵関係を作っていきたいと考えています。木曾を「心のふるさと」として位置づけることについてどう考えますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 木曾はすでに「心のふるさと」である
- B. 「心のふるさと」として位置づけたい
- C. どちらかといえば「心のふるさと」として位置づけたい
- D. どちらかとも言えない
- E. どちらかといえば「心のふるさと」として位置づけたくない
- F. 「心のふるさと」として位置づけたくない

私たちが持っている資源を通してもっとあなたとつながりたいです。つながるためのキーワードは「下流域の皆さんを元気にする」。あなたはどのテーマがお好きですか？



問2. 流域圏づくりの第一歩は「交流」だと私たちは考えています。木曾は山、木、水、食、生物、人間・文化が豊かな地域です。これらの資源を活用して、「自然ツアー」・「森林浴」・「温泉セラピー」・「スローフード」・「アニマルセラピー」・「パワースポット」をテーマに、下流域の皆様との交流活動を提案したいと思います。
別紙「木曾のセラピーメニュー」にある各テーマの内容と活動事例をご覧の上、質問に回答してください。

問2.1. 各テーマに共通する以下の価値群の中であなたが最も重視する価値を3つ選び、1～3の順に番号をつけてください。

	項目	順位
A	健康 活動による肉体的健康の向上・病気の予防、治療など	
B	精神・安らぎ 活動による精神的健康の向上、改善・気分転換など	
C	娯楽・快楽 活動による楽しい経験など	
D	友情・愛情・絆 活動による関係の深まり・新しいつながり	
E	共進・貢献・養育 活動による子供の教育・社会の貢献など	
F	アイデンティティ 活動による自分の文化背景・強み・情熱などの再認識・新発見	
G	自己実現 活動による経験・知識などの修得による達成感	

問2.2. 提示された木曾での活動事例に参加したいですか？あてはまるものをひとつ選んでください。

- A. 参加したい
 B. どちらかというに参加したい
 C. どちらかというに参加したくない
 D. 参加したくない

要素	テーマ	事例	A~Dから選んでください
山	自然ツアー	自然教育、薬の山	
木	森林浴	赤沢自然休養林、水木沢天然林	
水	温泉セラピー	炭酸泉、鉄泉	
食	スローフード	赤かぶとすんき、蕎麦	
生物	アニマルセラピー	木曾馬、乗馬セラピー	
人間・文化	パワースポット	神社、自然	

↳ 問2.3. 問2.2で「A」または「B」を選んだ活動事例についてお尋ねします。各テーマにおいて最も有力と感じたキーワードを書いてください。（提示にないキーワードでも可）

また、活動に継続的に参加することで元気になるメリットなどを考慮し、どのくらいの頻度で参加したいですか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. まずは1度
 B. 年に1回
 C. 年に2回
 D. 年に4回（季節ごとに）
 E. 年に5回以上

要素	テーマ	事例	キーワードを書いてください (記入例：地産地消)	(例：D)
山	自然ツアー	自然教育 薬の山		
木	森林浴	赤沢自然休養林 水木沢天然林		
水	温泉セラピー	炭酸泉 鉄泉		
食	スローフード	赤かぶとすんき 蕎麦		
生物	アニマルセラピー	木曾馬 乗馬セラピー		
人間・文化	パワースポット	神社、自然		

↳ 問2.4. 問2.2で「C」または「D」を選んだ活動事例についてお尋ねします。参加したくない原因を選んでください。（複数可）

- A. テーマに魅力を感じない
 B. 木曾での活動に魅力を感じない
 C. 木曾での活動の認知度が低い
 D. 参加にあたり課題がある（問2.5に具体的な課題を記しています）
 E. その他（具体的に書いてください）

要素	テーマ	事例	A～Eから選んでください
山	自然ツアー	自然教育 薬の山	
木	森林浴	赤沢自然休養 林 水木沢天然林	
水	温泉セラピー	炭酸泉 鉄泉	
食	スローフード	赤かぶとすん き 蕎麦	
生物	アニマルセラピー	木曾馬 乗馬セラピー	
人間・文化	パワースポット	神社、自然	

問2.5. 木曾での交流活動や観光に向けての心配な面として、あてはまるものに○をつけてください。(複数可)

心配なこと	○をつけてください
木曾の魅力を伝えるまとまった情報がない	
インターネット・通信環境が悪い	
地元の人とのコミュニケーションが難しい	
温泉やトイレなどの衛生環境が悪い	
自家用車がないと移動が不便である	
スーパーや病院といった生活利便施設が近くにない	
旅館などの施設の室内に虫がいることがある	
観光施設の接客態度・サービスの質が悪い	
他の観光客・利用者のマナー・利用心得が悪い	
ピーク期間の混雑・施設不足が気にかかる	
写真・説明文と実物の差が大きい	
料金が安い	
宿泊施設の快適性が悪い(室温、アメニティなど)	
施設の閉店が早い	
その他(具体的に書いてください)	

問2.6. その他、木曾地域へのご意見がありましたら、自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

山 	木 	水 	食 	生物 	人間・文化 
--	--	--	--	---	--

自然ツアー

- ・ 地域固有の自然環境・生物を中心とするツアー
- ・ 地元のボランティアや子供による説明を通して、自然環境・生物の固有性・多様性の価値や大切さへの理解を深める
- ・ また、資源の再認識が自然の保全につながり、持続可能な地域づくりを目指す

事例1：自然教育

- ・ 木曾駒ヶ岳と御嶽山という地質の違う山が近い距離で対峙している
- ・ 木曾は日本列島の「北限と南限の接点」でもある
- ・ そのため、木曾は生物多様性に満ちた地域であり、「ギフチョウ」、「フサヒゲルリカミキリ」など、たくさんの希少種が棲息している



事例2：薬の山

- ・ 木曾の山は昔から「尾張藩の薬箱」と言われ、様々な原料生薬が自生している
- ・ 昔から伝わる「百草」は、日本人が縄文時代から薬として使ってきたキハダを原料とした伝承薬で開山と共に製法が伝わってきたとされている
- ・ 木曾では自然ツアーの一環として、製薬や薬草の見学ができる



参加者のメリット：

- ・ 自然とのふれあいによって心身のリフレッシュ
- ・ 日本の原風景を楽しむ
- ・ 日本の山文化・知恵を身につけ、視野を広げる
- ・ 自ら新しいことを発見する

地元のメリット：

- ・ 地域の資源価値の再認識
- ・ 教育による自然環境・生物多様性の保全
- ・ 観光業による地域振興
- ・ 産業の地産地消（キハダの植林など、薬原料の国産化）

山 	木 	水 	食 	生物 	人間・文化 
--	--	--	--	---	--

森林浴

- ・ 森林環境を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目指すもの
- ・ 森の香りや空気の清浄さ、美しい森の色彩や景観などが生理に良い影響を及ぼす
- ・ 癒し効果が科学的に検証されたものを「森林セラピー」といい、森林セラピー基地で森林セラピーガイドやセラピストからアドバイスを受けられる
- ・ ドイツでは保険適用の「クナイプ療法」の一環として森林セラピーが先行

事例1：赤沢自然休養林



- ・ 森林浴登祥の地
- ・ 自然休養林第1号
- ・ 散策、バーベキュー、森林鉄道、民宿などメニューが豊富
- ・ 県立木曾病院と提携する森林セラピードックも用意

事例2：水木沢天然林



- ・ 平成の名水百選
- ・ 木曾川の源流
- ・ 98%の木が樹齢200年以上
- ・ 樹齢300年の木曾ヒノキやサワラが多い
- ・ 様々な散策コース


参加者のメリット：

- ・ 森林フィトンチッドの吸収で免疫力アップ
- ・ 自然との触れ合いや「1/f ゆらぎ」で心を癒す
- ・ マイナスイオンで身体をリラックス・活性化させる
- ・ 歩行や運動で体をリフレッシュ
- ・ レクリエーションで心をリフレッシュ

地元のメリット：

- ・ 下流域との交流で地域活性化
- ・ 森林周辺や関係産業の振興
- ・ 持続可能な山の手入れ
- ・ 森林保全資金の調達
- ・ 森林整備による水源の確保



山 	木 	水 	食 	生物 	人間・文化 
--	--	--	--	---	--

温泉セラピー

- ・ レジャーの目的だけでなく、温泉で体調を調べ、傷、疾病などを治療するもの
- ・ 温泉の健康への物理的作用・自律神経の正常化作用・化学的作用は医学的に検証されつつある
- ・ 温泉セラピーの一般的な効果として：
 - 休養
 - 病気・傷の平癒
 - 健康・美容の保養
- ・ また、湯質による特有効果もある


木曾の温泉の特徴

特徴1：炭酸泉



- ・ 炭酸ガスが溶け込んだ天然炭酸泉は医療効果が高く、「療養泉」とも言われている
- ・ 日本では珍しいが、木曾には天然炭酸泉がいくつもある
- ・ 入浴時に炭酸の泡が体全体を優しく包むのが特徴的

特徴2：鉄泉



- ・ 鉄分を多く含むため、温泉が赤茶色を示すのが特徴
- ・ 温泉水 1kg 中に総鉄イオンが 20mg 以上
- ・ その他のミネラルも豊富

参加者のメリット：

- ・ レジャーのほか、入浴・飲泉による健康の向上：
 - 炭酸：血流循環を改善、新陳代謝の促進、筋肉痛・関節痛の解消
 - 鉄分：リウマチ性疾患、神経痛、更年期障害、慢性湿疹、疥癬、貧血（飲泉）に効果

地元のメリット：


- ・ 関係産業の振興
- ・ 地域の多様な温泉（炭酸泉、鉄泉、硫黄泉など）の医療効果の再認識
- ・ 単なる観光資源でなく、ヘルス資源への展開も期待

山 	木 	水 	食 	生物 	人間・文化 
--	--	--	--	---	--

スローフード

- ・ ファストフードに対する、イタリア由来の伝統食文化や食材を見直す運動およびその食
- ・ Good（地域の中で守られてきた味）、Clean（環境に良い）、Fair（生産者に公平）と定義されている
- ・ 各地方で伝統的に栽培され、食されてきた固有の品種や加工食品のうち、希少で消滅しようとしている食を守るために、「味の箱舟」という国際的認定登録制度が設立されている

事例1：赤かぶとすんき



- ・ 赤かぶは「信州の伝統野菜」指定
- ・ また、その茎葉を原料としたすんき漬けと共に「味の箱舟」認定
- ・ すんきは貴重物資であった塩を一切使わない、日本で唯一の調味なし乳酸発酵による漬物である
- ・ 無塩食品の工夫や発酵の温度管理は大切な木曾地域の先人達の知恵である

事例2：蕎麦



- ・ 木曾の夏場の寒暖差で育まれた良質な蕎麦は風味豊かで甘いと評判
- ・ こだわりの蕎麦屋の数が多く、また工場見学・試食や蕎麦打ち体験ができる
- ・ 開田高原では古くから蕎麦の栽培が盛んで、蕎麦の花が咲く光景は夏の風物詩

グルメ巡りのほかに、郷土料理作り体験・農業体験などもできる！

参加者のメリット：

- ・ すんきのもつ植物性乳酸菌など、健康に良い
- ・ 山の食文化・味を味わう
- ・ 農業・ものづくり体験を楽しむ

地元のメリット：

- ・ 下流域との交流で地域活性化
- ・ 下流域の支援で地産地消や食材の国産化の促進
- ・ 伝統食・知恵の伝承

83

山 	木 	水 	食 	生物 	人間・文化 
--	--	--	--	---	--

アニマルセラピー

- 治療の補助として用いる動物介在療法と、動物とのふれあいを通じた生活の質の向上を目的とする動物介在活動に分類される
- 動物による癒し効果に限らず、運動療法など、身体的な側面も科学的に評価されている
- 効果的なセラピーとして、「イルカセラピー」「乗馬セラピー」などが挙げられる

参加者のメリット：

- 日常ではできない馬との触れ合いや乗馬を体験
- セラピープログラムによる健康の向上・改善



地元のメリット：

- 木曾馬の保存
- 乗馬セラピーの推進
- 木曾の馬事文化の保存



木曾馬

- 本州では唯一の日本在来馬
- 長野県天然記念物指定
- 中型馬であり、性格がおとなしい
- 江戸時代まで武士の馬として使用され、明治時代に入り農耕の目的で使用された



乗馬セラピー

- 木曾馬は乗馬セラピーに最適
- 県木曾養護学校では木曾馬を取り入れた教育プログラムを実施し、体の緊張や腰痛への効果について高く評価されている
- 馬を自由に触ったり道端の草を食べさせたりする、乗馬などが子供でも体験できる

山 	木 	水 	食 	生物 	人間・文化 
--	--	--	--	---	--

パワースポット

- 心の癒しや安らぎ、元気や好運をもたらす力があると信じられている場所が最近人気になっている
- 地球上に点在する特別な“場”であり、エネルギースポット、気場ともいう
- 本来は信仰の場であり、自然崇拝が行われていた場所（山・大地・川・湖など）であることが多い
- 日本では神社・山・森林などがよく取り上げられており、下流域からその威容を望むことができる御嶽山は古来より信仰の対象であった

事例 1：神社



- 約 850 年もの歴史ある水無神社をはじめ、大小さまざまな神社が木曾に点在し、その神秘さで心が安らぐ
- また、水無神社例大祭の「みこしまくり」や白山神社の古代神楽、木曾踊りや木曾節など、四季折々のイベントで元気をもらうことができる

事例 2：自然



- 山に囲まれた木曾には田立の滝、清滝など多数の滝があり、神秘的な雰囲気にも浸ることができる
- 静かに木曾に佇み、樹齢数百年の社叢や古

参加者のメリット：

- 都会では味わえない「心のふるさと」を満喫
- その場所が持つ不思議な力で気分転換
- 地球エネルギーの恩恵を体感
- 木曾で育まれた文化を体感

地元のメリット：

- 地域文化遺産の価値の再認識
- パワースポットへ訪れる人を介して木曾の文化を周知
- イベントなどを通じて下流域との交流
- 新たな観光資源として展開

(2) 小学生対象

自然とのふれあい・関心アンケート調査（木曾広域連合） 【小学生対象】

わたし
私は『かわたん』といいます！あなたと友達になりたいです。
あなたについて教えてください。



がくねん
学年： A. 1年生 B. 2年生 C. 3年生 D. 4年生 E. 5年生 F. 6年生

せいべつ
性別： A. 男 B. 女

じゅうしょ
住所（県・市町村）：

ながのけん
あなたは長野県の「木曾（きそ）」という地域を知っていますか？

A. 知っている B. 知らない



あなたは今までに（１）～（１６）の活動をしたことがありますか？
または、したいと思いませんか？あてはまるものに○をつけてください。

かつどう 活動	したことがある	したい
(1) 山登りやハイキング		
(2) 川遊び		
(3) カヌー乗り		
(4) 乗馬		
(5) テントで泊まる		
(6) スキー・スノーボード		
(7) 昆虫や水辺の生物を捕まえること		
(8) 植物の観察		
(9) バードウォッチング		
(10) 星や雲の観察		
(11) 山菜採り、キノコ採り		
(12) 魚釣り		
(13) 自然の材料を使った工作		
(14) そば打ち、ジャム作りなどの食品加工		
(15) 植林・間伐など (植林：山や野に苗木を植えて林に育てること 間伐：木の一部を切って、育ちやすくすること)		
(16) 米・野菜などの栽培・収穫		

木曾地域ではこのような体験がたくさんできますが、木曾地域に行ってみ
たいと思いますか？あてはまるものに○を1つつけてください。



- A. ぜひ行ってみたい B. まあ行ってみたい
C. あまり行きたくない D. ぜんぜん行きたくない

自然の中で遊ぶとき、あなたは（1）～（10）のどのようなことが
気になりますか？質問ごとに気になる度合いについてあてはまるものに
それぞれ1つ○をつけてください。



気になること	気になる度合い			
	とても 気になる	少し 気になる	あまり気 にならない	気に ならない
(1) ガ・クモ・アブなどの虫がいっぱいいること				
(2) お風呂に入れれないこと				
(3) 夜になると電灯がなくて暗いこと				
(4) 登山などで長い時間歩くこと				
(5) せまいテントでねること				
(6) 好きなものを食べられないこと				
(7) おうちのようなきれいなトイレがないこと				
(8) ご飯を自分たちで作らなければならないこと				
(9) テレビを見られないこと				
(10) 虫にさされること				

質問はこれで終わりです。ありがとうございました！



(3) 組織対象

サステナブル（持続可能）な流域圏づくりに関するニーズ調査（木曾広域連合）

【組織対象】

◆はじめに◆

少子高齢化が全国的に進行するのに伴い、木曾川上流域である長野県木曾地域では過疎化による農山村の衰退や森林荒廃が進行し、下流域では時に深刻な水不足や洪水等の災害に遭遇するなど、それぞれに大きな課題を抱えています。

こうした中、平成 22 年に名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）を契機に、木曾三川の自然環境保全に賛同した 29 自治体で構成する「流域連携自治体会議」では、平成 23 年から毎年木曾三川流域自治体サミットを開催していますが、平成 25 年のサミットにおいては「木曾からの提言」として、当地域にある資源を「流域圏の資源」として、下流域に住む皆様のニーズに即して、最大限に利活用することを通じ、上下流の交流・互恵関係を深めることを目指す提言をいたしました。

本アンケート調査はこのような「サステナブル（持続可能）な流域圏づくり」の一環として実施するものです。

◆調査の概要◆

○目的

- ・「はじめに」に記した「サステナブルな流域圏づくり」に向けて木曾川下流域に住む皆様の上流域に対するニーズを明らかにすること

○対象

- ・木曾川下流域の組織主体（企業・自治体・学校など）

○調査方法

- ・アンケート用紙へ貴組織（担当部署）としてのご意見を記入

○アンケート提出方法

- ・後日、木曾広域連合担当または調査受託者が直接回収にお伺いいたします

◆その1：意識編◆

問1. 貴組織についてお尋ねします。以下の情報を記入してください。

組織名 :
 規模（員数） :
 記入者氏名 :
 連絡方法（電話／メールアドレス） :

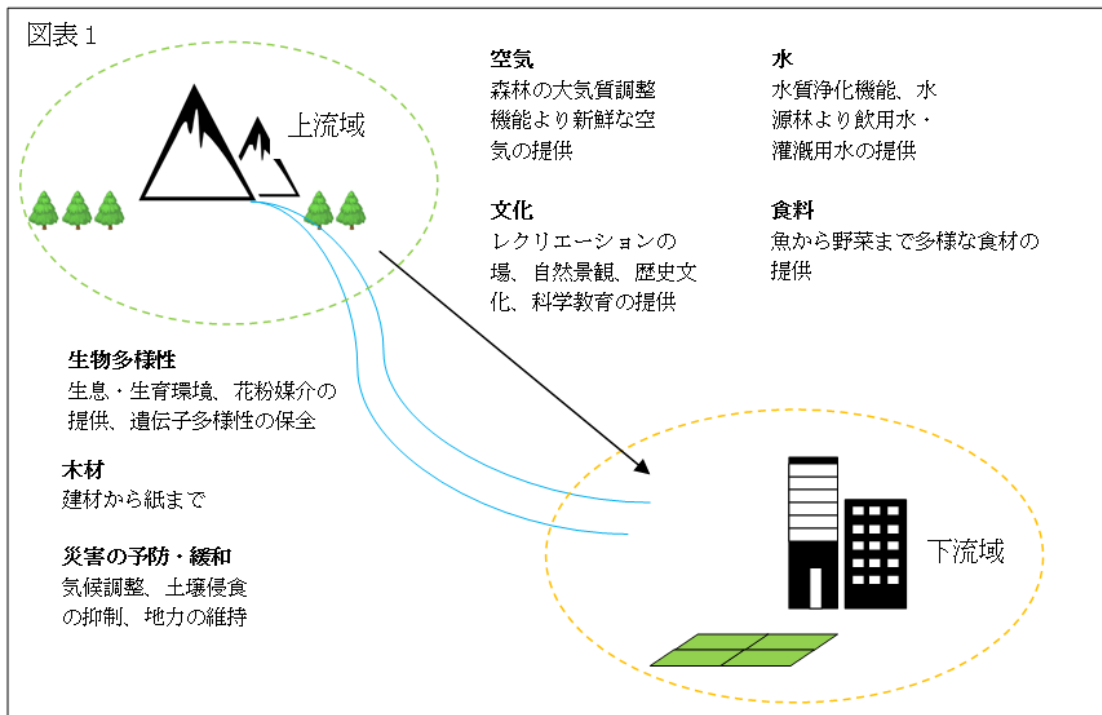
問2. 「流域圏」というのは、川を中心として、その川から資源・恩恵を受ける「流域」を一つのグループとして捉える考え方です。川の上流に当る山やそこにある農村や町のことを「上流域」、川の下流にある都市や港などを「下流域」というのが一般的です。貴組織の所在地の「上流域」として認識している地域を記入してください。（複数可）

所在地（県・市町村） :
 上流域 :

問3. 上流域は貴組織の活動にとって重要ですか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 重要である
- B. どちらかといえば重要である
- C. どちらとも言えない
- D. どちらかといえば重要ではない
- E. 重要ではない

問4. 上流域は単なる水源を供給するだけでなく、下流域の災害対策、環境問題、福祉、教育、産業までかかわり、生活圏・文化圏の形成に影響しています。以下の図表1をご覧ください。



上流域の持つ資源の貴組織にとっての重要度について、1～5の中から一つ選んでください。

5：とても重要 4：重要 3：どちらともいえない 2：あまり重要ではない 1：重要ではない

空気	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
水	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
文化	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
災害の予防・緩和	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
食材	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
生物多様性	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)
木材	(5 / 4 / 3 / 2 / 1)

↳ 問5. これまで適切な時期・規模で森に手を入れることにより、森が持つ様々な機能を維持してきましたが、木曽の人口減少や林業の衰退により、下流域も影響を受けてしまうことがあります。貴組織の活動を通して、上流域の課題による影響を実際に感じていますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 感じている B. どちらかといえば感じている
C. どちらかといえば感じていない D. 感じていない

問6. 問5. で「A」と「B」を選んだ方にお尋ねします。感じた影響を記入してください。
(例：水質が変わったなど)

問7. 貴組織は上流域とかかわりのある活動（例：上流域でのボランティア活動、寄付金、交流活動、上流域での合宿、上流域における事業の投資など）に関与したことがありますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 関与したことがある B. 関与したことがない

↳ 問8. 問7. で「A」を選んだ方にお尋ねします。関与した活動を記入してください。（例：上流域でのボランティア活動、寄付金、交流活動、上流域での合宿、上流域における事業の投資など）

問9. 上流域とかかわりのある活動への関与は貴組織の活動にとって意味があると思いますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 意味がある
- B. どちらかといえば意味がある
- C. どちらとも言えない
- D. どちらかといえば意味がない
- E. 意味がない

問10. 今後上流域とかかわりのある活動に、貴組織として関与したいと思いますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. 積極的に関与したい
- B. どちらかといえば関与したい
- C. どちらとも言えない
- D. どちらかといえば関与したくない
- E. 関与したくない

問11. 現在上流域とかかわりのある活動を組織の活動の一部として計画していますか？あてはまるものを一つ選んでください。

- A. はい
- B. いいえ

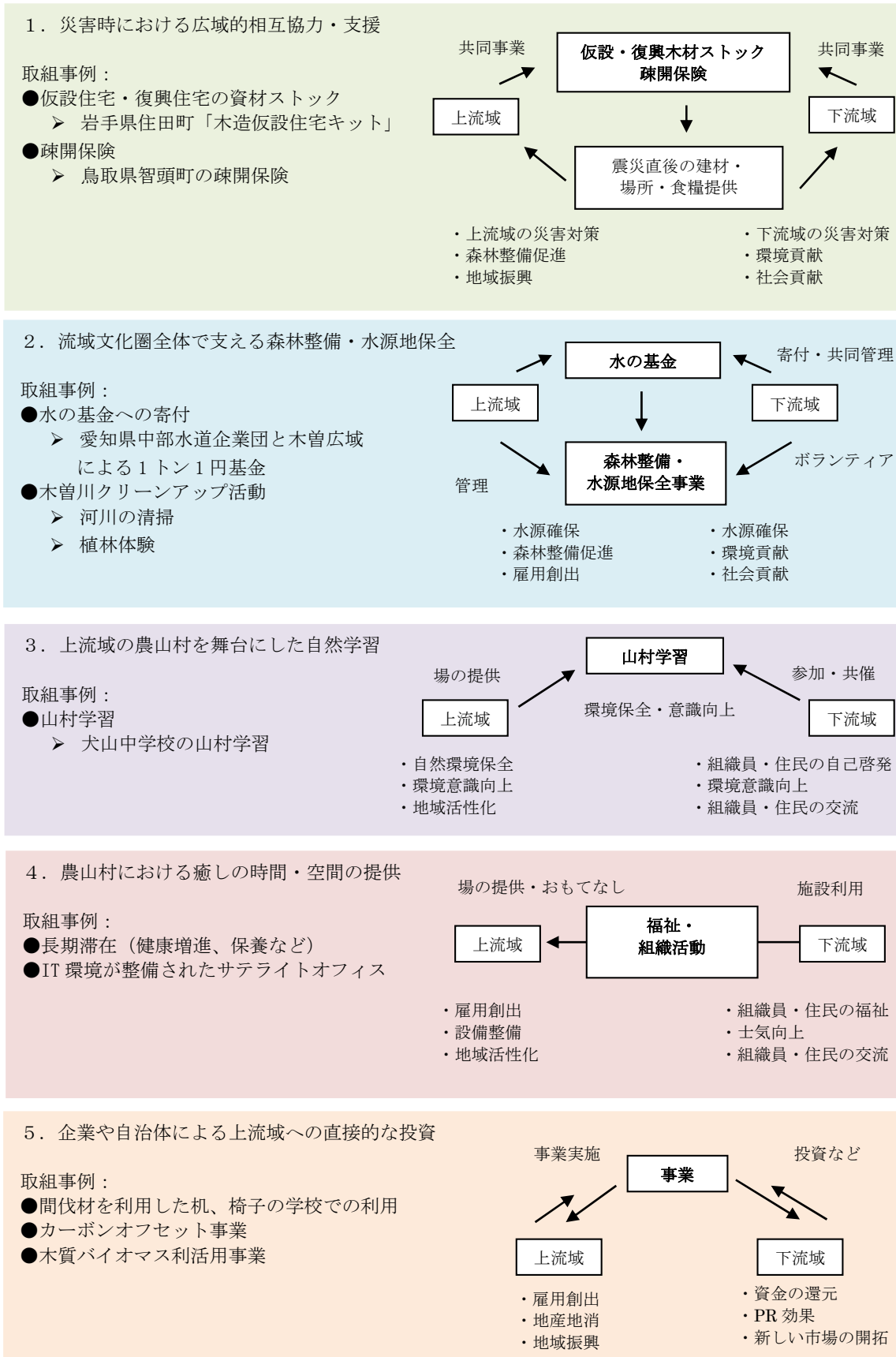
↳ 問12. 問11. で「A」を選んだ方にお尋ねします。計画している活動を記入してください。（例：上流域でのボランティア活動、寄付金、交流活動、上流域での合宿、上流域における事業の投資など）

問13. 流域圏としての帰属感、上流域との連帯感は組織として重要だと思いますか？

- A. 重要である
- B. どちらかといえば重要である
- C. どちらとも言えない
- D. どちらかといえば重要ではない
- E. 重要ではない

◆その2：ニーズ編◆

図表2（木曾三川流域自治体サミット「木曾からの提言」より）



図表2は木曾三川流域自治体サミットにて木曾地域が提言した流域間の活動・交流を示したもので、下流域の積極的な参加により持続可能な流域圏づくりを進めていくことを想定しています。

問1. 組織としての各取組テーマに対する関心度について、以下の回答表にあてはまるものをひとつ記入してください。また、関心のあるキーワードがあれば書いてください。

- A：関心がある
B：どちらといえば関心がある
C：どちらといえば関心がない
D：関心がない

項目	取組テーマ	A～Dから選んでください
1	災害時における広域的相互協力・支援	
2	流域文化圏全体で支える森林整備・水源地保全	
3	上流域の農山村を舞台にした自然学習	
4	農山村における癒しの時間・空間の提供	
5	企業や自治体による上流域への直接的な投資	

問2. 組織としての各取組事例に対する関心度について、以下の回答表にあてはまるものをひとつ記入してください。

- A：関心がある
B：どちらといえば関心がある
C：どちらといえば関心がない
D：関心がない

項目	取組事例	A～Dから選んでください
1	仮設住宅・復興住宅の資材ストック	
	疎開保険	
2	水の基金への寄付	
	木曾川クリーンアップ活動	
3	山村学習	
4	長期滞在（健康増進、保養など）	
	IT環境が整備されたサテライトオフィス	
5	間伐材を利用した机、椅子の学校での利用	
	カーボンオフセット事業	
	木質バイオマス利活用事業	
6	その他（自由に書いてください）	

↳ 問3. 問2. で「A」または「B」を選んだ事例について、関心を寄せる理由や関心の具体的な内容を書いてください。

記入例：項目3について、本市の環境教育推進計画の中心で、体験の重視による生物多様性や循環型社会に関する理解の醸成をうたっており、具体的なフィールドやプログラムを提供してくれる地域との連携に関心がある。

--

↳ 問4. 問2. で「C」または「D」を選んだ事例について、以下の回答表に関心がない理由としてあてはまるものを記入してください。（複数可）

- A：交流活動の対象として木曾に魅力を感じない B：組織と木曾の関連性が薄い
 C：取組活動と組織活動との関連性が薄い D：取組の意義・メリットに共感できない
 E：課題がある（問5.に具体的な課題を記しています）
 F：その他（具体的に書いてください）

項目	取組事例	A～Fから 選んでください
1	仮設住宅・復興住宅の資材ストック	
	疎開保険	
2	水の基金への寄付	
	木曾川クリーンアップ活動	
3	山村学習	
4	長期滞在（健康増進、保養など）	
	IT環境が整備されたサテライトオフィス	
5	間伐材を利用した机、椅子の学校での利用	
	カーボンオフセット事業	
	木質バイオマス利活用事業	

問5. 貴組織が木曾で活動・交流を行うことの課題を選んでください。（複数可）

課題	○をつけてください
組織所在地との距離が遠い	
移動が不便	
資金不足	
人材・技術不足	
ニーズがない	
木曾に関する情報の不足	
その他 （具体的に書いてください）	

問6. 貴組織が木曾で活動・交流を行うために、どのような支援が必要ですか？（複数可）

支援	○をつけてください
資金調達	
人材の協力	
情報の入手	
国や自治体の認定など	
その他 （具体的に書いてください）	

問7. その他、木曾地域へのご意見がありましたら、自由にお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

